

<事務局だより>

令和3年度(2021年度)炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
辻本 和文	部会長 (任期1年)	原子力機構
北田 孝典	副部会長 (任期1年)	大阪大学
名内 泰志	庶務幹事 (任期1年)	電力中央研究所
亀山 高範	部会等運営委員会担当運営委員 (任期1年)	東海大学
高木 直行	編集委員会担当運営委員 (任期1年)	東京都市大学
多田 健一	HP 担当幹事 (任期1年)	原子力機構
方野 量太	HP 担当幹事 (任期1年)	原子力機構
奥村 啓介	HP 担当幹事 (任期1年)	原子力機構
谷中 裕	財務小委員会担当幹事 (任期1年)	原子力機構
辻田 浩介	財務小委員会担当幹事 (任期2年)	原子力エンジニアリング
家山 晃一	編集小委員会担当幹事 (任期1年)	三菱重工業
郡司 智	編集小委員会担当幹事 (任期2年)	原子力機構
Van Rooijen Willem	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	福井大学
巽 雅洋	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	原子力エンジニアリング
高木 直行	セミナー小委員会担当幹事 (任期2年)	東京都市大学
山路 哲史	セミナー小委員会担当幹事 (任期2年)	早稲田大学
黒田 祐輔	セミナー小委員会担当幹事 (任期2年)	テプコシステムズ
相澤 直人	学術交流小委員会担当幹事 (任期1年)	東北大学
和田 怜志	学術交流小委員会担当幹事 (任期2年)	東芝エネルギーシステムズ
遠藤 知弘	学術交流小委員会担当幹事 (RPHA 担当)	名古屋大学
渡邊 友章	学生・若手小委員会担当幹事 (任期1年)	原子力機構
横井 公洋	学生・若手小委員会担当幹事 (任期2年)	日立製作所

編集小委員会からのお願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の記事として、「部会員の声（自由投稿）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しております。また、部会ニュース（炉物理部会ホームページに掲載）の投稿もございましたらお知らせください。

編集小委員会（部会報）担当幹事連絡先

三菱重工業

家山 晃一

koichi.ieyama.s5[at]nu.mhi.com

日本原子力研究開発機構

郡司 智

gunji.satoshi74[at]jaea.go.jp

[at]はアットマークと読み替えて下さい。

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先などに使用されます。登録情報（勤務先、Eメールアドレス等）に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをお願いいたします。

編集後記

炉物理の研究第74号の発行に際し、ご多忙中にも関わらずご執筆をご快諾いただいた部会員の皆様に深く御礼申し上げます。

特集1では、シリーズ「巨匠炉物理を語る」として、韓国科学技術院(KAIST)のNam Zin Cho先生に寄稿いただきました。全炉心体系のp-CMFD加速計算について理解が深められる大変興味深い内容ですので、ご一読いただければと存じます。

特集2では、「実験炉・研究炉による炉物理研究の将来」をテーマとした秋の大会の企画セッションについて、学术交流小委員会担当幹事からご報告いただきました。もんじゅサイトに設置する試験研究炉への要望・課題について議論した結果が纏められております。

受賞記念寄稿では、学会賞1件、部会賞2件のご寄稿をいただきました。これら素晴らしい研究成果を励みに、受賞者の今後のご活躍に期待したいと思います。なお、第53回原子力学会賞 学術業績賞を受賞されました日本原子力研究開発機構 石川真様の記念寄稿につきましては、核データニュース No.130 をご覧いただければ幸いです。

炉物理夏期セミナー開催報告では、開催者・講師・受講者の立場から、多数の方々に振り返りの記事をご執筆いただきました。趣向を凝らしたオンライン授業も2年連続となり、ノウハウが蓄積されて来たと感じます。

また、炉物理業界を大学から盛り上げるべく、本部会報では約20年ぶりに「研究室だより」を設けさせていただきました。初回は北海道大学 原子炉工学研究室をご紹介いただき、今後北から南へ、順にバトンを渡していきたいと存じます。

さらに部会員の声では、北大 千葉先生、名大 山本先生、遠藤先生より、減速過程におけるエネルギー損失に関するご投稿をいただきました。お時間のある際には是非ともご覧ください。

日本政府からはカーボンニュートラル宣言が出され、一方、欧州ではEUタクソノミーに原子力が追加される等、環境面における原子力発電の有用性が示されています。加えて、エネルギー輸出国であるロシアの情勢不安定を受け、エネルギーセキュリティの観点からも、原子力発電利用の重要性を再認識している日々です。原子力技術者として、原子力発電の3E+Sを実現させるために技術的な側面で貢献することはもとより、原子力発電の在り方・役割を幅広い層に理解いただくことが益々重要となっており、わかりやすい表現で正しく伝えていく努力をしていきたいと強く感じています。

部会報「炉物理の研究」の発行に関しまして、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年3月
編集小委員会担当幹事
三菱重工業 家山 晃一